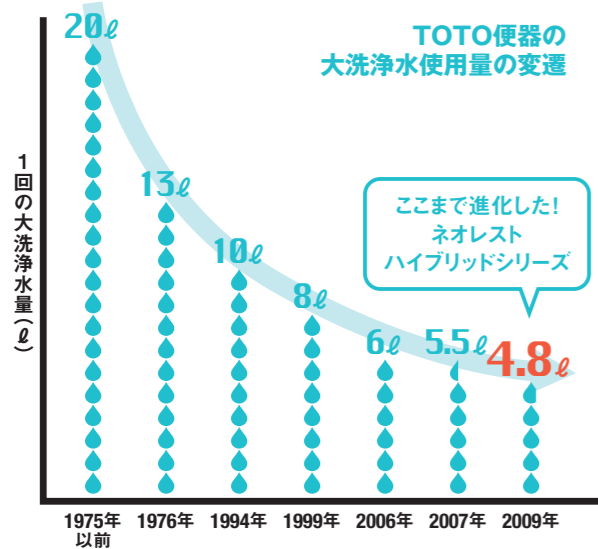


まずはトイレの世代をチェック そのトイレ、エコですか？

今や先進国で広がっている“洗浄水量6ℓ”トイレの登場は意外に最近のこと。30年以上前の水洗トイレは1回当たり13～20ℓもの水を流していた。リフォームの際に最新モデルへ交換すれば、環境にやさしいばかりが家計へのメリットも大きい。



13ℓ洗浄便器から4.8ℓに替えると…

13ℓ便器の場合

$$13\ell \times 4\text{回/人} \times 4\text{人分} = 52\ell \times 4 = 208\ell/\text{日}$$

4.8ℓ便器ネオレストハイブリッドシリーズの場合

$$\text{男性}(4.8\ell(\text{大}) + 3.8\ell(\text{eco小}) \times 3\text{回}) \times 2\text{人} = 16.2\ell \times 2\text{人} = 32.4\ell/\text{日}$$

$$\text{女性}(4.8\ell(\text{大}) + 4.0\ell(\text{小}) \times 3\text{回}) \times 2\text{人} = 16.8\ell \times 2\text{人} = 33.6\ell/\text{日}$$

$$32.4\ell/\text{日} + 33.6\ell/\text{日} = 66\ell/\text{日}$$

1日当たりの節水量比較

$$208\ell - 66\ell = 142\ell/\text{日}$$



試算条件：①男性2人、女性2人の4人家族 ②大1回+小3回/日・人

「節水」が「CO₂削減」に？ 快適なトイレ選びから地球環境を考える

ボクも地球に何かできるかな？



「節水」の大切さが以前にも増して叫ばれている。日本は水に恵まれた国。水資源問題は干ばつ地帯の問題。これらがすべて間違いだったと、多くの人が気づき始めた。では、今、私たちに何ができるのか？ そのひとつの答えは“トイレ”にある。

節水トイレに替えれば環境破壊を防ぐ手助けとなる

水は貴重だ。地球上に存在する水のうち、人間が使える水は約0.01%しかない。なのに日本人はその水を使いすぎているだろうか？

水資源問題、地球温暖化、環境汚染など、今までパラパラに考えられてきた問題は、実はすべてリンクしている。水を採取・浄化し各家庭に届け下水処理する、一連の水利用プロセス維持のためには、電気などのエネルギーが使用され、CO₂排出が避けられない。蛇口をひねれば水が止めどなく出てくる日本に暮らしているからこそ、水の大切さを常に意識し、世界の先頭に立って節水を心がけたいものだ。

まず手始めに、家庭の水まわりから節水を始めてみてはどうだろう。4人家族の平均CO₂排出量は1日約24kg。日本の排出量のうち21%を家庭関連からの排出が占めている。うち23%がトイレ、入浴、洗面、食事など水まわりによるもの。生活用水の節約は、地球温暖化対策にも効果的なのだ。

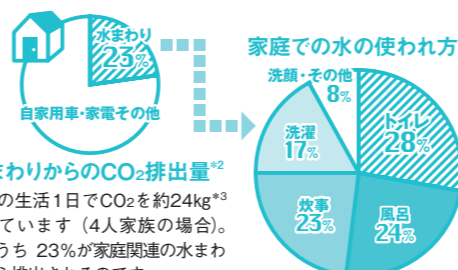
とはいえ、使い方の工夫のみに頼るの節水はなかなか厳しい。トイレの水タンクにペットボトルを沈ませるなどの節水方法が流行ったこともあるが、流し残しや故障の不安はぬぐえなかった。

しかし今、トイレの節水性能は驚くほど進化している。17年ほど前の

水洗トイレでは、1回当たり約13ℓの水を流していた。それが現在では約3分1以下の4.8ℓ。さらに、温水洗浄機能や暖房便座機能の省エネ化も著しい。

節水・省エネ効果の具体例を、TOTOの試算※で見よう。4人家族が従来の便器を使用する場合と、TOTOの最新節水便器を使用する場合と比べてみると、水道代の合計金額が年間1万3735円もダウン！CO₂排出量も94kg減らすことができる。

掃除のしやすさや快適な温水洗浄機能など日本製トイレは節水性能以外の魅力も大きい。住宅の建築やリフォームなどの機会があるなら、エコロジーに気を配った水まわり機器を積極的に採り入れてみてはいかがだろうか。環境と家計にやさしい生活を実現する手助けになるだろう。



水まわりからのCO₂排出量²⁾

普通の生活1日でCO₂を約24kg³⁾出しています(4人家族の場合)。そのうち23%が家庭関連の水まわりから排出されるのです。

※1 家庭からの二酸化炭素排出量の「動力他」のうち、「家庭における機器毎の電気使用量(2005年想定値)」記載の温水洗浄便座、食器洗い機の割合を水まわりとした。
※2 出典：環境省；2007年度温室効果ガス排出量 ※3 出典：温室効果ガスインベントリオフィス；日本の温室効果ガス排出量データ(2007年度)

最新技術の集結した 節水洗浄水量4.8ℓトイレはこれだ！



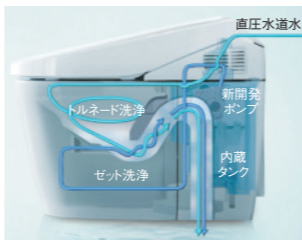
業界No.1 節水

2010年4月現在 (TOTO調べ)

その1 ハイブリッドエコロジーシステム

ふたつの水流でパワフルな洗浄力と省エネを両立

水道から直接供給され、便器の内側をトルネード状に洗浄する水と、内蔵タンクから加圧された水。これら2つの水をハイブリッド。1回当たり4.8ℓという少ない洗浄水でも汚物を一気に流してしまおう仕組みだ。マンションの高層階など低水圧の環境でも設置可能となった。



その2 eco小ボタン



1日6回男子小用時に、「eco小」洗浄を使うと、小洗浄使用に比べ、年間ペットボトル(2ℓ)約219本も節水できる。ちょっとした掃除などで少しだけ水を流したい時にも活躍。



その3 かしこく節電も

●保温便座

便座を保温中、熱は空気中にとんどん逃げていく。ネオレストハイブリッドシリーズRHタイプなら、便座と便フタの両方に断熱材を搭載。保温した便座から熱が逃げにくいため、電気使用量を約30%も減らせる。

●おまかせ節電

1日のうち、トイレをよく使用する時間帯とほとんど使用しない時間帯を分析して記憶。深夜など普段はトイレを使わない時間帯に便座の温度を自動的に下げて節電。何もなくても節電できる。

エコロジーをどこまで意識したトイレ「ネオレストハイブリッドシリーズ」は、デザイン的美しさや快適な使い心地、お手入れのしやすさなど、多彩な魅力だ。温水洗浄機能は、少ない水でしっかり洗え使用感心地いい、TOTO独自の「新ワンダーウエーブ洗浄」を採用。凹凸をナノレベルで平滑化した「セフィオンテク」加工は、汚れの付着を効果的に抑えてくれる。

便器と便座の隙間を清潔に保ちやすい、お掃除リフト、機能や洗浄時の作動音を軽減する工夫など、各種の親切設計も特徴。暮らしを快適にサポートしてくれるはずだ。

TOTO「GREEN MAX4.8ℓ」

TOTO GREEN MAX ➡ <http://www.toto.co.jp/greenmax/>

洗浄水量4.8ℓの超節水便器ぞくぞく登場!!

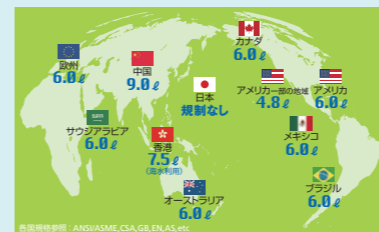


TOTO GREEN CHALLENGE

創立100周年を迎える2017年に向け、TOTOは従来からの環境活動をさらに加速させた環境ビジョン「TOTO GREEN CHALLENGE」をスタート。家庭の水まわりから出るCO₂の削減に向けた主力商品の提供を目指している。

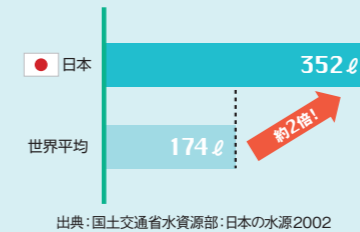
世界と日本の水事情豆知識

日本に規制がない!?



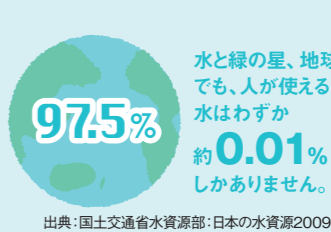
トイレで流す水の使用量を6ℓ以下に規制している国は驚くほど数多い。しかし、何と日本には水量規制がないのだ。トイレメーカーに加えユーザーも水資源保護、CO₂削減のために自主的な行動が求められる。

日本の水使用量は?



日本の生活水使用量は、1人1日当たり352ℓ。世界の平均の約2倍。「日本は水が豊か」と言われているが、水資源として利用できるのは河川に流れ込む一部のみ。人口密度も高いため1人当たりの水資源量は世界平均の半分以下なのです。

水資源問題って?



地球上に存在する水は約14億km³。そのうち約97.5%は海水で、残った2.5%の淡水も、ほとんどが南極や北極の水や地下水のため、人が使える水は全体のわずか約0.01%。限られた水をみんなで大事に使う必要があるのです。